

## 平成 28 年度 開講式および第 1 回講演会 記録

日 時	平成 28 年 4 月 9 日 (土) 13:00~16:00	
会 場	此花会館 梅香殿	
講 師	京都大学名誉教授 舞根森里海研究所長 田中 克先生	
演 題	2016 年度自然学講座の狙い	
備 考	参加者数 195 名 (会員 178 名、一般 17 名)	記録 飯田正恒

## 1. 開講式 (13:00~13:20)

児玉利恒代表理事の挨拶につづき、田中克先生から二年目となるテーマ「森・里・海のつながりー生命の循環」の講座をすすめる基本的な考え方として、大学時代の経験、震災後の舞根湾や有明海の現状から森里海連環学を提唱したいきさつを踏まえ、現場から学ぶことを大切にしたいとお話があった。



児玉利恒代表理事



田中 克 先生

(詳細別紙記録参照) 引き続き飯田がスタッフを紹介し開講式終了。

## 2. 講演 平成 28 年度『自然学』講座の狙いと構成 田中 克 先生 (13:20~16:00)

## (1) 自然学講座 20 回の講義の構成

本年度の 20 回の講義を①森関係 ②里関係 ③川関係 ④海関係ならびに森里海関係に分類し、講師の紹介と講演の狙いの説明があり、受講生はそれぞれの講演への関心を高めることができたと思う。この一連の講演を通して、自然と社会の多様な側面、およびいろいろなことが不可分につながっていることの価値を理解していきたい。

## (2) 自然観察会 7 回の構成

自然観察会の目的とそれぞれの観察会の狙いと特徴および本年度は海外での観察会を行わず、国内のみとした理由について説明があった。

## (3) いのちのふるさと海と生きる社会の創生

東北大震災後 5 年経過したが、震災の教訓 (自然への畏敬の念を取り戻す、大量生産・大量消費の物質文明の破綻、技術で自然を制御できるとの過信の戒めなど) はどれだけ生かされているか。残念ながら東北では住民の意志に反して巨大防潮堤の建設が進み、やがて全国の海岸線がコンクリートで固められてしまうのではないかと危惧が現実化する兆候が見られる。水際で育つ稚魚の棲息域が失われてしまうようなことにしないために、水際の再生をはかることを森里海連環の基本課題とし、いろいろなシンポジウムや全国学士会誌「ACADEMIA」などでのキャンペーン、また環境省の「つなげよう、支えよう、森里川海」プロジェクトによる「いのちのふるさと海と生きる」の出版を通して世論に訴えるキャンペーンを展開するとのこと。私達もその活動への理解と支援をしていきたいと思う。

## (4) 三陸の水辺に建設が進む巨大防潮堤

3 月 29 日、30 日、岩手から気仙沼の海岸線を視察し海岸に建設中の防潮堤を視察してきた。岩手県の山田湾、宮古などに巨大な防潮堤を建設中で、大槌町では 5 年経過するも土地嵩上げの真っ最中。一方、赤浜地区、譜代などは防潮堤は不要と早くから宣言し、従来の景観を保っているところもあり、このような地区は岩手県に多く、宮城県にはほとんど見られない。来年度の観察会に大槌町を検討したいとのことであった。

以上